

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500092		
法人名	有限会社ケアシステム		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県鹿沼市西鹿沼町1018-1		
自己評価作成日	令和元年9月18日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.wam.go.jp/wamapp1/hyoka/003hyoka/hyokanr_i.nsf/aHyokaTop?0g

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和元年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員として自治会のイベントに参加したり、牧場でヤギや烏骨鶏を飼育し、地域の皆様や近隣の施設の方がより親しみを持てる環境作りをしています。朝礼にて理念を再確認し、切れない支援を目指して申し込みを徹底しています。認知症があってもその人らしく、毎日楽しく生活できるように、職員も笑顔をもっとにしています。キャリア段位制度を取り入れ、職員がやりがいを感じられる環境作りをし、職場内外研修の年間計画に沿って、職員のスキルアップに力を入れています。又、ラーメンやカラオケ、大正琴ボランティアの方に来て頂き、ご利用者様の楽しみの1つになっています。理学療法士の指導のもとリハビリを行い、ご利用者様も楽しみながら機能向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は自治会に加入し、地域のイベントに参加したり事業所の敷地内にヤギ牧場を造り地域の方が親しみやすい環境を作ることで、地域の中の事業所として認知されている。ヤギ牧場や事業所玄関で飼っている犬やインコが近所を散歩する人々を出迎えている。また、ベンチを用意し寛げるスペースとして開放している。事業所のイベントとして月一回のラーメン出張サービスがあり、今年はさらに寿司の出張サービスも目標としており、利用者の楽しみが増えるように工夫している。
 ・今後、事業所の増設が予定されており、そこではひきこもりや社会に出られない人を受け入れたいという想いがある。受け入れるだけでなく、社会に通用し自信をつけることも福祉としての役割であるとの想いもある。
 ・キャリア段位制度を導入し職員のスキルアップを図り、質の高い支援を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を再確認し、その日の支援に反映させている。	毎日、朝礼を2ユニット合同で実施し介護理念を復唱することで再確認している。また、全職員で作成した「職員の心得」も併せて支援に活かしている。月1回、事業所の全体研修において日々の支援の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や施設のイベントがある時は声掛けしながら双方参加している。牧場を通し、近隣の方や保育園とのふれあいに繋がっている。	地域のお祭りには利用者と職員で参加し、輪投げ等を楽しみ地域の方と交流を図っている。事業所の玄関には地域の方が散歩の途中で気軽に休憩できるようにベンチを設置したり、犬や小鳥を飼育している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の困っている話などを聞いた際は、対応方法をお伝えしたり、訪問したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し、運営状況や活動報告を行っている。施設に苦情が入った場合は対応とともに報告を行い、又、4か月に1回の第三者虐待防止委員会や毎月開催している介護職員適正化委員会等の報告を行い、助言等頂いている。	会議は併設されている小規模事業所と合同で実施し、自治会長や薬局の薬剤師、議員、民生委員、行政、利用者、家族等、他職種が参加している。会議では事業所側から運営状況や活動報告を行い参加者から意見を貰っている。民生委員から食事に困っている地域の高齢者がいるという相談に対してお弁当を配達する等、協力、連携している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加していただき、事業所の運営状況や活動状況等を報告し確認して頂いている。分からない時や困難事例等があった場合は、その都度相談し対応している。	運営推進会議で指摘された事項については速やかに確認し、今後の支援に活かしている。今年の台風被害では、市から緊急避難受入れ要請があり受入れに協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修やリーダー会議で身体拘束について勉強したり、事例検討会を行ったりすることで、自分たちの業務の振り返りを行い、気づけないうちに行ってしまうことがないか再確認している。	第三者虐待防止委員会や身体拘束についての事例検討会を全体研修等でグループワーク形式にて実施している。事務長が講師になり何が拘束にあたるのが改めて考える機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修やリーダー会議で虐待について学ぶ機会を持ち、日常的にも繰り返し職員に説明をしていることで職員もあつてはならないことだと認識している。介護職員適正化委員会はその人が介護に向いているのかを話し合い個人面談等に繋げ、勤務状態や対応を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度やあすてらすを利用されている方もおり、職員も理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時、プラン変更時、本人とご家族様との話し合いを十分に行い、不安や疑問点を解消し、安心して生活を送れるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加していただいている方もおり、意見を頂いたりしている。訪問時や来訪時、電話連絡時に本人、ご家族様とコミュニケーションをとることで、意見や要望を言いやすい関係作りをしている。又、意見が出た際は、月曜ミーティングや全体会議、運営推進会議で報告をしている。	毎月の請求書と一緒に陽だまり通信を同封し日頃の様子が分かるように伝えることで、来訪時や電話をかけた時に話しやすい雰囲気になるように努めている。利用者の殆どは言葉でコミュニケーションが取れるため随時話を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やリーダー会議、個人面談等で悩みや意見等を聴いている。現場に積極的に入り、職員とコミュニケーションをとり、関係を深めることで、職員が話しやすい環境作りをしている。	施設長は経営理念の1つである「職員が幸せになれる施設」を目指し、職員の悩みには、随時二者面談を行い話を聴いている。話の内容によっては各リーダーを指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度を取り入れ、職員のやりがいや満足感に繋がる環境作りに努めている。本人の意欲があれば、外部研修参加や資格取得などできる環境になっている。又、O-JTやoff-JTを積極的に実施し、パートから正社員へ移行しやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲があり、本人が希望すれば、必要な研修に参加できるようになっている。会社側から能力に応じて研修参加や資格取得を勧めることある。職場内研修の年間計画を立て、毎月全体研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全体研修に他の事業所の方を講師としてお招きして勉強会をしていただいたりしている。又、職員は施設外研修等で他施設の職員と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人が安心して利用できるよう、必要であれば何度も自宅や病院に伺い、関係を築いてから契約をしている。生活歴や好きな物など会話の中から拾い、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を主としたご家族様の負担軽減となるよう計画を立てている。面談を繰り返しながら、ご家族様も無理なく、本人と関わっていただけるような支援になるよう話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様との話し合いを十分に行い、必要な支援を取り入れ、本人やご家族様が納得いかれる支援にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にご利用者様にも洗濯物を干したり畳んだり、食器を洗ったり拭いたりしていただいている。できない部分を職員がお手伝いさせていただき、できる部分はご利用者様にお手伝いしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話連絡時には、本人の近況報告を行うようにしている。又、状態が変化した時や、病院受診時には報告をすることでご家族様と情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医など今まで通っていた所との関係を保つようしている。友人等が来訪時は、必要であれば同席し、本人の生活状況などをお伝えし、開かれた施設であることを説明し、いつでも来て大丈夫であることを理解していただいている。	彼岸やお盆等の墓参りに職員と一緒にいたり、昔、買物をした店に行ったりしている。住み慣れた家に帰りたいという利用者に対しては、家族と相談して数時間ではあるが帰宅を叶えられるようにしている。友人には自由に訪問して頂き関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者様の動きや言動に気を配り、双方の間に入ることで、ご利用者様同士の関係作りをしている。一人ひとりが孤立しないように、個室訪問を十分に話を聴いたり、輪の中に入れるよう声かけしたりして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で状況を確認したりしながらコミュニケーションを図っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様とのコミュニケーションを密にとり、会話の中から要望や意向等を把握している。会話が困難な場合でも、表情や生活歴等を見ながら、その人に合った方法で確認している。	利用者と言葉でコミュニケーションは取れているが、言葉と想いのずれがある時の表情の変化を見逃さず、利用者の気持ちを理解できるように努めている。起床や朝食の時間は利用者一人ひとりの今までの習慣や希望に沿って支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様と面談を重ねながら生活歴や家族関係等を把握するよう努めている。何気ない雑談の中からも情報を拾うように気を配り、職員間で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様が穏やかに生活を送れるよう、月曜ミーティングを毎週行い、一人ひとりの心身状態の把握をしている。理学療法士によりその人の持っている力を活かすリハビリを指導してもらい職員で共有し、取り組んでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に個別計画を立て、それに沿って日々の支援を行っている。月末にはモニタリングを行い、随時見直しを行っている。	介護計画と連動し個別計画を作成している。個別計画を一覧表にして職員が実践状況を随時記入できるようにしている。毎月末にケアマネジャーと施設長が中心となり評価を行い、本人や家族、支援者の思いを反映し、随時見直しを行っている。	介護計画に対して全職員が意見を言えるようにグループワーク等の研修の充実、及び、職員一人ひとりのレベルアップを図ることを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体研修や各ミーティング等で記録の重要性を随時説明している。職員が使用するトイレに記録すべき事柄をA4で貼り、意識付けを行っている。本人、ご家族様の言葉や変化があった時など記録に残し、申し送りノートや日誌で情報共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況・状態の変化を受け止め俊敏に職員間で話し合い、安心して生活を送ってもらえるよう柔軟な対応をしている。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴やカラオケ、出張ラーメン等のボランティアの皆様協力して頂いて、ご利用者様が楽しい時間を過ごせるよう努めている。近隣の施設に散歩しながら職員と出向き、外部との繋がりを作っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に往診に来てもらっているが、希望した方は今までのかかりつけ医を継続している。薬局の方とも連携をとり、状態変化があれば、かかりつけ医・薬局と情報共有を行っている。必要であれば受診し、受診前・受診後に家族様に経過を報告している。	かかりつけ医の受診は家族対応としているが、困難な場合は事業所独自の有償ボランティアによる通院で対応している。協力医は月1回の往診がある。病院や薬局、事業所が連携し情報共有しているため、利用者の状態変化時の対応はスムーズである。有料ではあるが、希望すれば訪問歯科の診療を受けられる。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の普段の様子や平常時バイタルを把握し、少しの異変にも気づけるよう努めている。看護師に報告、指示を受け、ご家族様への連絡や対応をしている。必要時は速やかに受診している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は訪問したり看護師に話を聞いたりして本人の状態を把握するよう努めている。退院前カンファレンスを行い看護師やDrと情報交換を行っている。連携シートを提供してもらい、職員とともに確認している。退院前には本人やご家族様とも話し合いを行い安心して退院できるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて全体研修やミーティング等で職員の意見を聞いたり、学んだりしている。契約時にご家族様に終末期についての意向を伺っている。	事業所と家族は契約時に重度化や終末期に向けた同意書を結んでいる。看取りについては過去に2名の実績がある。今後も希望があれば実施する予定だが、家族が毎日面会に来ることや最期まで関わることを条件としている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修で年1回は心肺蘇生法やAEDの使用法について指導を受けている。緊急マニュアルを作成し、急変時はそれに沿って動くよう職員に周知している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、消防の方の指導を受けている。運営推進会議の皆様に参加して頂いたり、火点の位置や昼夜をその都度変えて避難訓練を実施している。	避難訓練には自治会長も参加し、利用者や職員がどの様に非難するのが自分はどうすればいいのかを確認している。近所の介護施設を避難場所として協定を結んでいる。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者それぞれの性格を理解し、ミーティングで話し合い、その方に合った対応をするよう努めている。又、年1回接遇マナーを全体研修で学び、言葉遣いや立ち振る舞いで相手に不快な思いをさせないよう職員に日常的に伝えている。	職員が接遇マナーを学ぶ機会があり、言葉遣いや対応の仕方など、本人の気持ちを大切に考えた支援を心がけている。入浴やトイレ介助で異性介助を嫌がる人には同性の介助で対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけを多くし、本人が自己決定できるよう配慮している。本人の想いを尊重し、希望に添えるよう支援している。又、意思の疎通が難しい場合も表情等を観察し本人の意思を確認している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行かれたり、新聞や本を読まれたり、カラオケを楽しまれたり、それぞれ思い思いに過ごされている。本人の意思を尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床したら鏡の前で顔を洗い髪を整えて頂いている。外出時やイベントがある時はメイクをしたり、希望すればマニキュアを塗ったりしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭きをご利用者様と一緒にしている。1日おきに食事を作り、野菜をちぎったり簡単なことをお願いしている。	献立は栄養士の資格を持つ事務職員が作成しているが、給食委員会が利用者の希望を聞き献立に取り入れている。利用者ができる範囲で野菜と一緒に刻んだり、食器を拭いて貰っている。月に1回、ラーメン屋さんが来て本物のラーメンを味わうことができています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量、排泄状態を1つの表にまとめて一目でわかるようにチェックをしている。水分量が少ない方は寒天ゼリーやスイカやアイスなどを食べて頂き、水分を補ってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯ブラシは、見守りや介助にて行っている。協力歯科医院のDrに毎月口腔ケアの方法等指導を受けている。週1回の訪問歯科診療の際、口腔内の点検をして頂いている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状態を表に毎日チェックし、個別にパターンを把握するよう努めている。その方のタイミングに合わせた声かけをし失禁を減らしている。オムツやパットの見直しを随時行い、可能であれば布パンツに変更したりしている。	排泄表を基に個別のパターンを把握しトイレで排泄することを基本としている。夜間帯は本人の意向でオムツを使用している方もいる。理学療法士による機能訓練の成果で下肢筋力が向上しリハビリパンツから布パンツに移行出来た方もいる。自立に向けた取り組みを積極的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を表に毎日チェックすることで排便状況も一目でわかるようになってきている。必要時は水分を多めに摂ったり、繊維質の多いものや牛乳を提供したり、歩行していただいたり、腹部をもんだりしている。3日以上排便がない場合は便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があればそれに沿うようにしている。入浴剤を使用したり、時には花を浮かべたりして気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。	本人の希望の時間帯や長湯の希望にも対応している。庭に咲いているバラを浮かべてバラ風呂にして季節感を味わえるようにしたり、入浴剤を使用しゆったりした時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、希望すればいつでも居室でお休みして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dや薬局の方の指示の基、看護師が管理を行い、定時薬や臨時薬を内服していただいている。服用したら一目でわかるようにチェック表に記入している。薬の変更があった場合は、薬局の方に説明していただき、職員がそれぞれの薬について把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	玄関やホールに季節の花を飾ったり、季節に応じた壁飾りを画用紙等を使いご利用者様と一緒に作っている。又、季節に応じたイベント等を考案し、ご利用者様に参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は近隣施設や牧場へ散歩に行ったりしている。希望があればご家族様に確認し、一緒に買い物に行ったり、外食したりしている。野外レクでは季節を感じていただけようお花見に行ったり、こいのぼりを見に行ったりしている。その時の様子等もご家族様が来所された際に報告している。	利用者が買い物や外食の希望がある時は利用者と職員が1対1で出かけている。野外レクレーションでは桜や紫陽花等の花見に出かけ季節を体感している。「ヤギの乳を飲みたい」という利用者の希望で事業所の敷地内で飼いだめたヤギ牧場や近所への散歩は日課となっている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば職員が同行し買い物に外出されたり、施設の前の自販機に好きな飲み物を買に行かれたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、ご利用者様から希望があればご家族様などに電話をお繋ぎしている。郵便物は、本人よりお願いされたものをポストに投函するなどしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内や玄関には季節の花を生けたり、壁に写真や季節に応じた折り紙や画用紙で作成したものを貼ったりし、季節を感じていただけるよう努めている。	リビングから中庭に自由に入出入りすることができる設計になっている。中庭にはベンチが設置されていて、草木や季節の花をのんびり眺めることができる。また、手摺も設置されていて歩行訓練を実施したりイベントにも使用する等、多目的に利用できるスペースとなっている。廊下の壁には行事の写真や利用者の作品等を掲示し季節感を感じられる工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や玄関に椅子やテーブルを用意しておくことで、いつでもそこで他のご利用者様と一緒に会話を楽しんだり、ひとりで過ごしたり思い思いに過ごすことができる。又、ホール内では気の合う方とテーブルを一緒にしたりして配慮している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、本人が使っていた食器や思い出の品やアルバム等をお持ちしていただくよう伝えている。そこから会話を繋げたりして安心して過ごしていただけるようにしている。	本人のお気に入りの物や思い出の品、馴染みの品を持ちこみ、安心して過ごせる環境作りに配慮している。事業所の近くに東武鉄道が通っていて電車を見るのが好きな方には、線路に面した居室を提供している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間はトイレがわかるように電気をつけてドアを開けたままにしていることでご利用者様がトイレに自分で行くことができる。自由にどこでもいけるよう危険回避や安全面に配慮して常に見守りを行っている。	